

教科名	理科	科目名	生物	履修クラス	3年必履修選択	
				担当者		
使用教科書		「B i o L o g y 生物」東京書籍			履修単位数	4
副教材等		「セミナー生物基礎+生物」第一学習社 「スクエア生物図説」第一学習社				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
生物や生命現象に関する関心・探求心を高め、生物学的な探究能力を身につけさせる。生物の構造や種の維持などに見られる共通の法則性や多様性を学ぶ。実験を行う際にはレポートを課すことにより考察力を伸ばすようにする。	様々な現象や法則性・多様性について理解できているか否か、定期考査や問題演習、実験レポートなどにより評価する。

年 間 授 業 計 画			
月	予定時数	単 元	学 習 内 容 ・ 学 習 活 動
4	中間考査まで 24	生命現象と物質	<ul style="list-style-type: none"> 細胞を構成する生体物質であるタンパク質を中心に生命現象との関連を理解させる。関連して、代謝とエネルギーについても理解させる。 遺伝子の発現調節を大腸菌の遺伝子組み換え実験を例に取り上げ、理解させる。
5			
6	期末考査まで 28	遺伝子の働き 生殖と発生	<ul style="list-style-type: none"> バイオテクノロジーについて詳しく触れる。 生物の生殖と配偶子の形成および動物の発生のしくみについて実験・観察を中心に理解させる。
7			
9	中間考査まで 28	生物の環境 応答 生態と環境	<ul style="list-style-type: none"> 動物の刺激の受容と反応および動物の行動については問題演習を通じて理解を深めさせる。 生態系の学習については図版や写真等を活用し、地球環境の保全の観点からも理解を深めさせる。
10			
11	期末考査まで 28	生物の進化 と系統	<ul style="list-style-type: none"> 進化のしくみと生物の系統との関連についても理解を深めさせる。分子進化の例なども取り上げる。
12			
1	3学年 特別 講習 期間	入試対策 各自の進路に応じた入試対策・問題演習	
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
<p>3年必修選択科目である。学習に取り組む前提として、1年次履修した生物基礎の教科書をよく復習し覚えておく必要がある。教科書の分量も生物基礎と比べ大幅に増え、4単位であるので定期考査の範囲がかなりの量となる。普段の予習・復習が欠かせないことは言うまでもない。実験については目的を理解し、操作の意味を考えながら、自ら考察する力をつけるよう心掛ける。</p> <p>※選択者のクラス編成により、進度が変わる場合がある。</p>